

防災ひとくちメモ

大雪に備える

上川・留萌地方など日本海側の地方では、12月から1月にかけての時期の降雪量が最も多く、年間降雪量のおよそ半分がこの時期の降雪量となります。

大雪に伴う災害は、道路の通行止めをはじめとした交通機関への障害、電線などに雪が積もり電柱の傾斜や電線の切断による停電、雪の重みによる家屋や樹木の損壊など、私たちの生活に大きな影響を及ぼします。また、なだれや屋根からの落雪、雪下ろし作業中の事故なども発生することがあります。

気象台では大雪による災害が予想されたとき、大雪警報や大雪注意報を発表して、皆さんに警戒・注意を呼びかけています。また気象庁ホームページの「今後の雪」では、1時間毎に推定した積雪の深さと降雪量の分布及び6時間先までの予測の積雪の深さと降雪

量の分布を見ることができます。出かける前に最新の天気予報や気象情報、道路の通行止めやライブカメラなどをテレビ、スマートフォンなどにより確認して行動するよう心掛け、大雪が予想される場合は、予定の変更や出かけるのを控えましょう。



《気象庁ホームページ「今後の雪」》

<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

◆お問い合わせ先◆

旭川地方気象台

☎0166(32)7102

<https://www.data.jma.go.jp/asahikawa/index.html>



多文化共生と「日本語」以外

10月30日夜、てしお温泉「夕映」多目的ホールにて町内で働きながら暮らしている外国人25名を招き研修交流会が開催されました。外国人雇用事業者の7名、そして吉田町長や野崎副町長をはじめ役場の職員を含めると計約40名が参加しました。「町内の外国人仲間どうしの顔を知る」「天塩町で暮らすための防災知識、生活知識を知る」研修は、通訳を交えず現場だけで繰り広げられました。デジタル技術を駆使する野口隊員がスクリーンいっぱいにベトナム語やインドネシア語などを表示する同時翻訳システムを投影し、言葉の壁を意識せずに進行できたからです。防災ハザードマップはスキャン型翻訳ツール（グーグルレンズ）を使いました。各テーブルでの会話は外国人のみなさんが日ごろ学ぶ日本語が飛び交い、また、その補助にもなるようスマートフォン用翻訳アプリケーション（ボイストラ）を使ってもらうなど、構える国際交流の場とは少し違う和気あいあいの場になりました。翻訳結果と口語が合わず、部分的に音声認識が困難なところもありましたがそれらもご愛敬。流れが途切れず研修が進んだことは大きな意味で多文化共生でのまちづくりの一步になったように感じられました。



ビンゴゲームの景品は日本らしいものを選びました。湯たんぽ、カイロ、日めくりカレンダーなど。「使ってますよー」という声を聞いてみたいと感じました。そうしたときに私が使う翻訳アプリケーション「ボイストラ」みなさんも機会がありましたらダウンロードして使ってみてください。町で働く外国人の方のみならず天塩町を訪れる観光客との会話、そしてご自身の旅行での会話が楽しくなること請け合いです。（三國）



多言語音声翻訳アプリ
<ボイストラ>

VoiceTra

